



信州大学繊維学部長
篠原 昭

発刊にあたって

信州大学繊維学部の前身、上田蚕糸専門学校が明治四三年（一九一〇）に創立されてから八〇年、傘寿を迎えることになった。前半の四〇年は専門学校の時代であり、正に受難の連続で、二度の世界大戦と世界恐慌、そして敗戦、若い学徒が安心して学べる環境ではなかったと思う。昭和二四年に大学に昇格してからの四〇年は平和な時代ではあったが、経済発展、国際化、技術革新、そして高等教育の大衆化と目まぐるしい情勢の変化に対応して、教育の改革をせまられた時代であった。

八〇年前の明治四三年一月、七里ヶ浜で逗子開成中学のボート遭難事件があり、中学生が犠牲になった。「真白き富士の嶺」がはやったのもその年である。この遭難者と同世代の若者が蚕糸業に夢を託して全国から上田の町に学舎を求めてやって来た。そして養蚕科五三人、製糸科四〇人が入学し、上田蚕糸専門学校が開校したのである。

しかし蚕糸業をとりまく環境は必ずしも順風ではなかった。明治の末に蚕の一代交雑が完成し、蚕糸業が隆盛をきわめていたかにもえたが、一方では人絹工業が企業化されようとしていた時代でもあった。不思議なことに蚕糸を専門に学ぶ学校に、創立当初から人絹の専門家が教授陣に加わっていた。将来を予見しての配慮であったのだろうか。この布石が後に大きな力を発揮することになるわけで、炯眼な先輩たちに敬服せざるを得ない。

本書は蚕糸教育、繊維教育の変遷を写真で構成したもので、各時代を学び抜いた人たちの軌跡である。一人でも多くの人にみて戴くことを願っている。